

第3回 鉄道における準天頂衛星等システム活用検討会 概要

1. 日 時 : 令和元年 12 月 25 日(水) 13:30~15:00
2. 場 所 : 中央合同庁舎 3 号館 10 階共用会議室 A
3. 出席者 : 中村日本大学名誉教授、水間東京大学特任教授、古関東京大学教授、
鉄道事業者、関連団体、研究機関、
国土交通省鉄道局、交通安全環境研究所

4. 結果概要 :

第3回検討会では、事務局から列車制御・保安分野検討WG及び保守・防災・サービス分野検討WGにおけるこれまでの検討結果と今後の検討事項等について説明を行った。委員からの主な発言は以下の通り。

- 列車制御・保安分野における準天頂衛星の活用メリットとして、踏切における障害物検知後の対応や、大規模停電後の復旧などの課題解消が低コストで実現できる可能性があることなどを言及してほしい。
- フェールセーフ性については、各装置の故障時だけではなく、誤検知の発生時等についても配慮する必要がある。また、従来のフェールセーフの前提にあった「故障時には停止させる」の考え方だけではなく、「誤差に応じて安全余裕を調整する」などの方策が可能であることも重要である。
- 「保守作業時間の増加」については、保守の作業時間そのものが増えてしまうように誤解される可能性があるため、表現を工夫した方がよい。
- 今後、測位試験によるデータの蓄積に加え、技術開発の動向を注視しつつ、鉄道の動特性を踏まえた測位結果の処理方法を検討していくことが重要である。
- 活用可能性の検討については、今回実施した測位試験のデータだけでなく、過去の試験データ（GPS 含む）等も加えて行った方がよいのではないかと。